

インド政府の2024/25年度暫定予算案

財政健全化と高成長の両立は、中長期の成長期待にポジティブ

2024年2月5日

お伝えしたいポイント

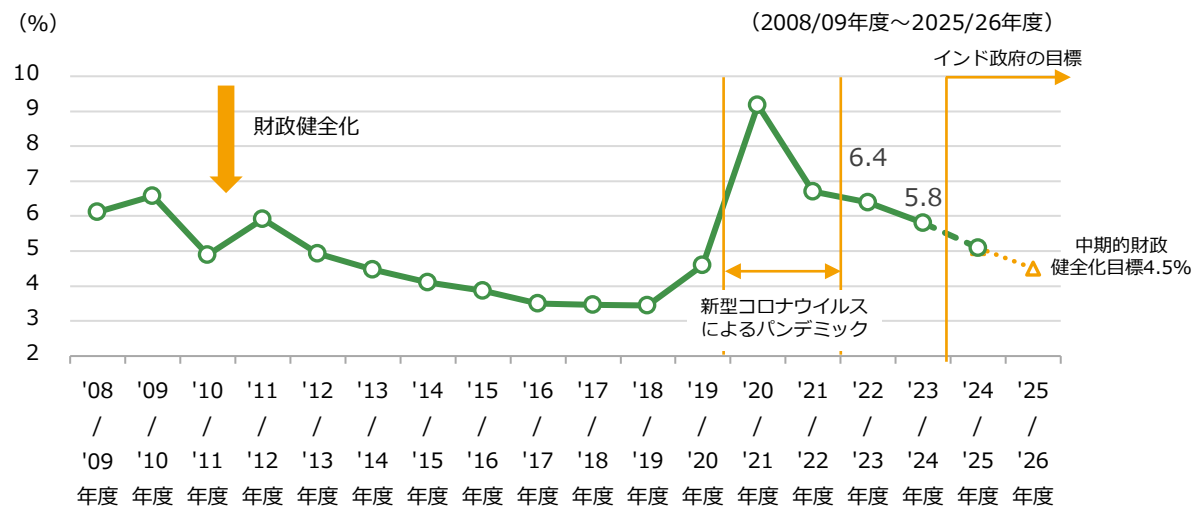
- 中期的財政健全化目標に向けて前進し、金融市場の安定に寄与しよう
- インフラ投資等への予算の一段の増強は、高成長を支える見込み
- 総選挙に向け、「2047年（独立100周年）までの先進国入り」目標を強調

中期的財政健全化目標に向けて前進し、金融市場の安定に寄与しよう

インド財務省は2024年2月1日、24/25年度（24年4月～25年3月）予算案を国会に提出しました。24年4～5月に下院総選挙を控えているため、暫定予算の位置づけとなります。但し、総選挙ではモディ首相が率いる与党BJP（インド人民党）の議席数の単独過半数維持や、モディ首相の続投の可能性が高いため、予算案への注目度は通常と比べても低下していません。特に、総選挙の前に、モディ政権が大衆迎合的なバラマキ政策を盛り込むかが注目材料となりました。蓋を開けてみると、インフラ投資など、将来の経済成長に繋がる資本支出への予算を増やすと同時に、市場予想以上の大幅な財政赤字削減にも取り組むことで、バランスの取れた予算案として金融市場で高く評価されています。

財政健全化において政府は、24/25年度の財政赤字対名目GDP比を前年度実績見込みの5.8%から5.1%へ改善させる方針です【図表1】。市場予想以上の大幅な赤字削減で、中期的財政健全化目標（25/26年度までに同比率を4.5%に縮小させる）に向けて確実に前進していると言えます。予算発表後は国債利回りが顕著に低下するなど、財政健全化を目指す姿勢は金融市場の安定に寄与しています。

図表1 中央政府の財政赤字対GDP比の実績値および政府目標

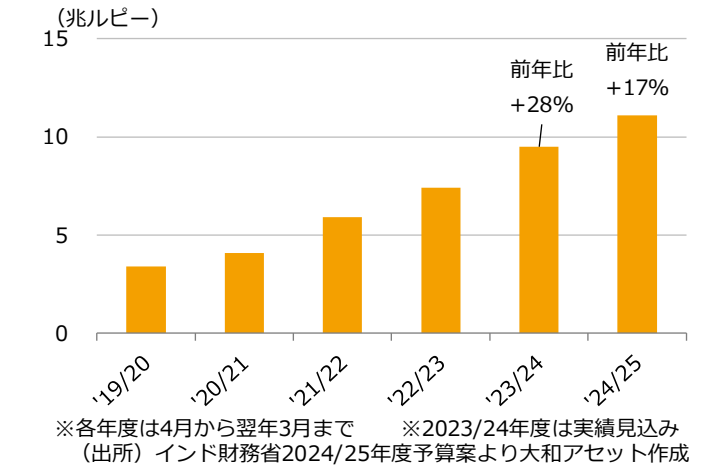


※各年度は4月から翌年3月まで
 ※2023/24年度は実績見込み (出所) CEIC、インド財務省2024/25年度予算案より大和アセット作成

インフラ投資等への予算の一段の増強は、高成長を支える見込み

モディ政権は引き続き野心的なインフラ投資計画を継続しており、株式市場の追い風になると期待されます。インフラ投資などを含む資本支出は前年度実績見込み比+17%へ増加し【図表2】、特に交通物流関連は、大幅に増加した昨年より一段と積み増しが進みました【図表3】。また、中間層向けの住宅購入支援や、EV充電施設の拡充、太陽光パネルによる電力供給など、様々な分野での投資拡大も盛り込まれました。インフラ投資を筆頭に、その他の業種の投資も台頭し始め、経済の高成長を支えると期待されます。

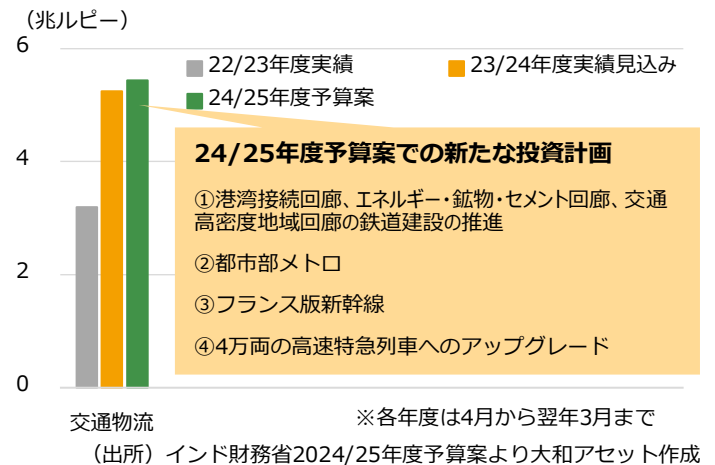
図表2 インフラ投資等を含む資本支出の推移



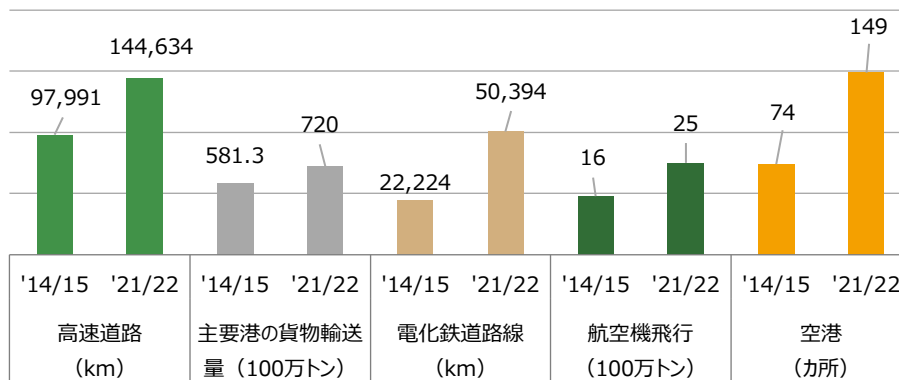
総選挙に向け、「2047年（独立100周年）までの先進国入り」目標を強調

シタラマン財務大臣の予算案発表演説は、モディ氏が首相に就任した14年以降の成果報告と、「47年までの先進国入り」に向けた更なる発展の約束で構成されました。成果に関して21/22年度までの7年間だけを見ても【図表4】、インフラ建設が顕著に進み、ビジネス環境の改善や、外資の投資加速等に伴う景気の好循環が形成されました。また、先進国入りの目標実現には今後5年が「黄金期」と強調し、総選挙での国民の支持を呼び掛けました。野党の混乱もあり、モディ首相続投の可能性は高く、強いリーダーシップの下、経済の好循環継続が期待されます。

図表3 交通物流関連の予算案配分および投資計画



図表4 モディ首相就任後のインフラ改善状況



(出所) インド財務省2024/25年度予算案より大和アセット作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。